

## (別添3)

### 【稲敷市】 校務DX計画

#### 【現状】

稲敷市では、令和4年度から校務DX化やペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきており、Googleフォーム等のクラウドサービスの利用により不必要なデータの手入力やUSBを使用したデータ移行による業務負担の軽減を実現している。一方で「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、校務支援システムのクラウド化、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直しが一部進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

#### 【課題】

##### (1) 校務支援システムのクラウド化

稲敷市では、「Google Workspace」等のクラウドツールを学習に活用しているほか、学校と保護者との連絡手段として「LEBER」を導入するなどクラウドツールの活用が進んでいる。しかし、校務支援システムに関しては、オンプレミス型での運用となっているため、教職員は教務・保健・成績管理等のシステムを使用する業務を行う場合、必ず学校内で作業をする必要がある。

##### (2) FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し

稲敷市では、教育委員会と学校とでやり取りする電子化されていない事務手続きや学校内で配布する文書等の一部においてペーパーレス化が進んでいない状況である。紙の文書の一部では明文化のされていない慣行に基づき、押印を求めているものもあり、見直す必要があると考えられる。また、ICT環境の整備とともにFAXでのやり取りを廃止していく方針としていたが、学校によってはFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。

#### 【取組方針】

現状と課題から稲敷市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

##### (1) 校務支援システムのクラウド化

教職員の働き方改革等の観点からも、業務負担を軽減するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、学校現場と現状の課題やニーズ等の情報共有を行い、検討を重ねたうえで、次回の校務支援システムの契約更新時にパブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムのクラウド化を目指す。

##### (2) FAXでのやり取り・押印の見直し

ペーパーレス化の進んでいない文書及び押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、各学校や教育委員会間で協議して見直しを図っていく。また、FAXはICT環境の整備が既に完了していること等から、原則使用しない方針とし、業者や各機関等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。